南相馬市に位置する弊社の鹿島工場は、社員の「夢」が形になったものでした。

株式会社友伸エンジニアリングは志を同じくする7名の仲間が、大手企業を退職して創業した会社です。創業当時は一つの仕事が終われば、全員参加で宴会を催したり、旅行にいったり、絆とご縁を大切にしながら、仕事を続けてきました。現在、約150名の社員が働いていますが、「全員が参加してこそ意味がある」という創業社長の想いは引き継がれており、今でも全社行事の旅行や、部ごとの交流会などが活発に行われています。

2021年に創業50周年を迎える弊社ですが、10周年や20周年など、節目ごとにプロジェクトを立ち上げて、全社員が参画し「夢」を語る制度があります。新規事業を始めたり、ハワイ旅行にいったりと、様々な社員の「夢」を形にしてきました。そして25周年時の社員の「夢」が「大きな工場で伸び伸びと仕事をしたい」というものでした。その後、様々な土地を視察した中で、創業メンバー所縁の土地でもあった福島県南相馬市に工場を建てることが決まり、1995年に弊社の鹿島工場が竣工しました。

操業も順調に流れ、東京の工場だけでは引き受けられなかった大型物件も製作できるようになり、2000年には当時世界最大のシンガポールの清掃工場に製品を納入することもできました。そして竣工時に新卒採用した社員が、今では工場長となり、会社全体の売上半分の製品を製作できる工場にまで成長しました。

2011年の東日本大震災では、鹿島工場の社員全員が避難。また、年度末ということもあり、工場には仕掛品が多数ありました。当時、創業社長は闘病中で入院していましたが、陣頭指揮を取るため出社し、役員と幹部、総務が集められました。

まずは社員の安否確認、そしてお客様へ如何に製品をお届けするか。幸いにも全社員が東日本大震災で命を落とすことなく、安否確認が出来ました。電話がほとんど通じなかった中、ショートメール等のやり取りで、何とか安否確認できたことは、大きな教訓となり、緊急連絡先や、災害時一斉配信のメールアドレスの整備など、会社のシステム作りに繋がりました。仕掛品は、東京から役員と幹部自らトラックを運転して引き取りに行きました。当初の納期にはもちろん間に合いませんでしたが、それでもお客様に了承いただきながら、東京工場にて仕上げて、無事にお届けすることが出来ました。

震災から1か月半後には大多数の社員が戻り、その後、全員欠けることなく操業再開できたことについては、感謝の念に堪えません。操業再開を見届けて安心したかのように、創業社長は同年5月に永眠しました。創業社長は常々、なるべく地元のお店、地元の企業を利用するようにと口にしていました。ご縁があってその土地で仕事をさせてもらっているのだから、地域に貢献する会社でなければいけないと。自分の葬儀には、生花の手配は地元のこのお店でと言い残して亡くなっていきました。

震災後に南相馬市から要望があり、鹿島工場の敷地内に仮設住宅が建ちました。140戸ほどの仮設　住宅が建てられましたが、2018年には集約により役目を終え、同市より返還されました。そしてその土地に、鹿島工場操業から24年経った2019年、第2工場が竣工しました。生産能力の向上は目的の一つではありますが、いま新たな雇用を被災地域で生み出すことに大きな意義を感じています。「空は青い　明日に向かって　チャレンジ」という社是の下、今後も全社員一丸となって、「夢」を追い続けていきます。ありがとうございます。

震災後のわが社

株式会社　友伸エンジニアリング

～空は青い 明日に向かって チャレンジ～

所在地：南相馬市
事業内容：受配電設備（制御盤、配電盤、分電盤）の設計・製造、メンテナンス